

## 国立国際美術館 収集方針

国立国際美術館では、日本の美術の発展と世界の美術との関連を明らかにするために必要な美術に関する作品・その他資料のうち、1945年以降を重点的に収集している。これまで主に戦後の欧米、また戦後から現在にいたる日本の現代美術を網羅的かつ重点的に集めることを目指し、収集を継続してきた。またこれまでの収蔵作品を見直しながら補完すべき作家や作品、新たな動向にも注目し、系統的なコレクション形成に努めている。また当館が企画した展覧会への出品作品からの収集にも留意している。

令和三年度は、特別購入予算でメル・ボックナー《セオリー・オブ・スカルプチャー（カウンティング）&プリマー》、ロバート・ゴーパー《無題》、マーク・マンダース《乾いた土の頭部》を収集した。とりわけボックナーは、コンセプチュアル・アート初期の重要な作例で、代表作が日本国内に収蔵されことは大きな意義がある。ゴーパー、マンダースも代表的な作例であり、ゴーパーは国内では初の美術館への収蔵で、活用が見込まれる。また、個展を開催した鷹野隆大の作品を17点収蔵し、まとまったかたちで展覧することを可能とした。中堅の映像作家として世界的にも活躍を始めている山城知佳子の映像作品も4点収蔵した。これにより、当館の収集対象に加わった沖縄の現代美術の文脈形成に厚みをもたらした。

## 国立国際美術館 美術作品購入一覧（令和3年度）



=特別予算購入

1	★	種別	彫刻
	★	作者名	メル・ボックナー(1940-)
		作品名	セオリー・オブ・スカルプチャー（カウンティング）&プリマー
		制作年	1969-73年
		材質・形状	彫刻21点：石とチョーク、ドローイング22点：インク、紙
		寸法	サイズ可変
		解説	作者はアメリカのみならず、世界的なコンセプチュアル・アートの歴史の礎を築いた重要な作家である。本作品は、美術作品の存在条件を探求した歴史的重要作であり、初期コンセプチュアル・アートの代表作として世界各地で発表されてきた。ドローイング22点と彫刻21点から成り、彫刻部分は展示の都度に石を並べ、チョークで書いて完成させる。彫刻についての「コンセプト」が重要であるという歴史的な転換点をまさに具現化した作品で、1969年から構想した彫刻を1973年にまとめている。
		取得額	—
		展示予定	2022年度コレクション2（令和5年2月4日-5月21日）で展示予定
2	★	種別	彫刻
		作者名	ロバート・ゴーパー(1954-)
		作品名	無題
		制作年	1992年
		材質・形状	蜜蝋、木綿、皮、アルミニウムの留め具、人毛
		寸法	15.0×45.0×15.0 cm
		解説	作者は2001年、ヴェネチア・ビエンナーレのアメリカ館代表に選出されるなど、同国の現代美術を代表する一人。死という主題によって生の意味を問い、また同性愛者の視線を通して社会の非人間的な圧力を暴く作品を主に制作する。流し台や人の脚など日常生活の象徴ともいえる頻出モチーフは、本物のような精巧さであるが故になお一層生命力の欠如を主張する。本作品は子供の脚で愛着をも感じさせる特別な魅力がある。
		取得額	—
		展示予定	2021-22年度コレクション展「コレクション2：つなぐいのち」（令和4年2月8日-5月22日）で展示
3	★	種別	彫刻
		作者名	マーク・マンダース(1968-)
		作品名	乾いた土の頭部
		制作年	2015-16年
		材質・形状	ブロンズ、彩色
		寸法	233.0×283.0×155.0 cm
		解説	作者は1986年から「建築としての自画像」とする構想に沿って一貫した制作を続けている。建築の枠組みを通して自分自身を探求し続けており、彫刻やオブジェをインスタレーションとして展開することで新たな世界を示している。本作品は作者の特徴的な作風を示す代表作の一点。スタジオでの制作過程のスナップショットのように、中断された瞬間にも思える。乾いた粘土が剥がれ落ちるような錯覚を与えるがブロンズで鑄造されており、特定のモデルは存在せず、現実と幻想の境界線を曖昧にする。
		取得額	—
		展示予定	2021-22年度コレクション展「コレクション2：つなぐいのち」（令和4年2月8日-5月22日）で展示

4	種別 : 洋画 作者名 : 郭仁植(1919-1988) 作品名 : Work 制作年 : 1963年 材質・形状 : ガラス、麻布 寸法 : 46.0×120.7 cm 解説 : 作者は1919年韓国生まれ、戦前に日本で美術を学び、一度韓国に戻った後、戦後に再び日本に戻り、以後日本で活動を続けた。読売アンデパンダンなどに出品して活躍、とりわけ1960年代初頭からガラスなどの素材を用いた平面作などで頭角をあらわし、もの派の先駆的な存在として評価されている。本作品は1963年に内科画廊での個展に出品された作品で、当館所蔵に同展に出品した同スタイルの作品があるが、ガラス素材の扱い方に差異があり、作者の当時の取り組みを検証するための重要な資料ともなる。  取得額 : 1,100,000円 展示予定 : 2023年度以降開催のコレクション展で展示予定
5	種別 : 洋画 作者名 : 郭仁植(1919-1988) 作品名 : Work 制作年 : 1963年 材質・形状 : ガラス、麻布 寸法 : 46.0×120.7 cm 解説 : 作者は1919年韓国生まれ、戦前に日本で美術を学び、一度韓国に戻った後、戦後に再び日本に戻り、以後日本で活動を続けた。読売アンデパンダンなどに出品して活躍、とりわけ1960年代初頭からガラスなどの素材を用いた平面作などで頭角をあらわし、もの派の先駆的な存在として評価されている。本作品は1963年に内科画廊での個展に出品された作品で、当館所蔵に同展に出品した同スタイルの作品があるが、ガラス素材の扱い方に差異があり、作者の当時の取り組みを検証するための重要な資料ともなる。  取得額 : 1,100,000円 展示予定 : 2023年度以降開催のコレクション展で展示予定
6	種別 : 洋画 作者名 : 郭仁植(1919-1988) 作品名 : Work 制作年 : 1963年 材質・形状 : ガラス、麻布 寸法 : 46.0×120.7 cm 解説 : 作者は1919年韓国生まれ、戦前に日本で美術を学び、一度韓国に戻った後、戦後に再び日本に戻り、以後日本で活動を続けた。読売アンデパンダンなどに出品して活躍、とりわけ1960年代初頭からガラスなどの素材を用いた平面作などで頭角をあらわし、もの派の先駆的な存在として評価されている。本作品は1963年に内科画廊での個展に出品された作品で、当館所蔵に同展に出品した同スタイルの作品があるが、ガラス素材の扱い方に差異があり、作者の当時の取り組みを検証するための重要な資料ともなる。  取得額 : 1,100,000円 展示予定 : 2023年度以降開催のコレクション展で展示予定
他20点／計26点 購入総額 : 524,062,000円	